

『2017年の幕開けです。』



例年行われる必勝祈願の神社参拝が終了し、いよいよ2017年がスタートしました。昨年は5人の3年生が人数の少ない中、南商野球部そして1、2年生の後輩達に自分たちの足跡を何とか残そうと必死に頑張ってくれました。

そのお陰と1、2年生の成長・頑張りもあり、秋の大会ではいい経験をすることができました。今まで見えなかったものが、その先に形としてしっかりと見え、進むべき道が明確に理解できたのではないのでしょうか。

『よくあそこまで行った』『よくやった』で終わらせることなく、『手が届くところまで来た』『本当に手が届かなかったのか』『あそこまで行ったら、勝たなければいけない』。そういった物の見方、感じ方。そして実践。今まで信じてきたものを継続し質を高め、新たなステージで取り組まなければいけないと思っています。周囲の言葉に心を乱されることなく、自分たちの可能性を信じ、今

までやってきたことは無駄ではなかった。まだまだ今やっていることを信じ継続し極めていけば、自ずと目標・目的にしている道が開けるはずです。まずは今やっていることを信じ継続し質を高めることです。

グラウンドに出るまで後70日近く、今やるべきことをしっかりと理解し、自分たちで雰囲気を作り、その雰囲気を自分たちで管理、実践することです。

2年生は1年生の時と違い、自分たちに時間が預けられ自分のペースで学習・練習をしているところです。時間を預けられている責任自覚を忘れないことです。そして、自分の立ち位置、自分の実力、今まで自分が残した結果（学習・野球）をしっかりと受け入れ、『みんな』『みんなと一緒に』『あいつもやっているから俺も』ではなく、自分自身の進むべき道を自分の力で進んでください。

最後は競争で勝ち抜いた者がいい思いをするのです。何度も言っているように、勝負事や新1年生を迎える春のチーム、そして、3年生最後の夏のチームに『3年生だから』『頑張っているから』『みんなと一緒に』はありません！！

残された期間、勝負事に絡める選手。チームに貢献できる選手になってもらいたいと願い、今2年生と関わり声をかけているところです。期待しています。

1年生は約1年、高校野球、南商野球を経験してきました。いち早く同級生や先輩より自分の実力を理解し、受け入れ、進むべき道を明確にして自分と向き合い、進んでください。進むべき道を見失い、余計なエネルギーや時間を使わないでください。

16歳になると自分のことは自分が1番わかっているはずですが。周囲の声に心を乱されたり、同調を求めたりすることなく。自分のために、自分がいい思いをできる、そのことだけに、今ある時間とエネルギーを自分と向き合う作業に費やしてください。

春・夏の大会どころか、もうすでにチーム内での秋の大会の戦いは始まっているのです。積み重ねる期間と時間と日数が多いほど、本当の意味での『実力』を手に入れられるはずですが。追う学年ではありません。追われる学年なのです。

マネージャーについては、南商野球部が勝利するための『最高の戦力』だと監督としては考えています。私がそう感じるようになったのも過去のマネージャーの働き、実績です。自分たちで人間関係を構築し、自分たちで『人のために行動発言する』そして、その雰囲気自分たちで管理し維持していく。

自分のやりたいことや損得、自分の感情（楽しい楽しくない、面白い面白くない）はさておき、チームの成長、チームの勝利のために、行動発言するという点では監督の私と同じ立場だと思っています。選手のお母さんになる必要はありません。まずは自分のことを第一に、マネージャーの自分がチームの足を引っ張らないようになった上で人のために動ける人間になってください。

1、2年生の部員は、シーズン中野球に没頭し、野球最優先の生活を送ったため、学習面では大きな負債を抱え、シーズンオフを向かえています。シーズンインを前にその負債を資産に変える今の学習期間です。

シーズン中、野球に集中できる環境作り、そして、間違いなくやっ



てくる進路活動。高校野球を終えた後の人生を視野に入れながら、今はシーズン中に爆発的な力を発揮するための充電期間だと思い、自分で自分を成長させてください。監督の私や周囲に追い詰められることなく、やらされるのではなく、自分自身の力で前に進むのです。



各ご家庭には昨年度同様、多大なるご負担をおかけすることになります。部員は今凄まじい環境と取り組みの中で必死に頑張り、自立しようとしています。秋の大会が終了してから3ヵ月。まだまだではありますが、社会、そしてグラウンドで戦うべく力を身につけようと葛藤しています。

野球にしろ、人生にしろ、先にあるものをしっかりと見据えさせた上で、グラウンドに出るまでの残された約70日を頑張らせようと思い、監督の私も必死に部員と向き合っているところです。我が子の成長を1番に、最優先にご協力、ご支援よろしくお願ひします。

監督の私自身も秋の大会の経験を踏まえ、新たな取り組みと仕掛けを行うべく、今研修に励んでいるところです。選手も監督の私も、現状維持は後退を意味し、ワンランク上のレベルで物を見て感じて実践しなければいけないと決意しています。

当然勝負を意識し、同時に高校生としての人間教育にも力を注ぐつもりです。私自身も高校野球の監督としてのカウントダウンが始まっています。周囲の声に心を乱されることなく選手・チームを最優先に、残された期間を全うしようと考えています。

今後とも南商野球部のご協力、ご支援よろしくお願ひします。

帯広南商業校高野球部 監督 小林 真基